

## 肉用牛経営

### I. 舎飼から放牧に転換を考えている方、関係者

#### 1. 放牧で経営が成り立つの？

##### 放牧による収益性向上の理由

###### (1) 放牧経営

資源循環型の生産方式であり、生産コスト低減可能な技術のため収益の確保と向上が見込まれます。

###### (2) 牧草の生産効率が高くエサやりの手間削減

放牧では牛が自ら餌を探し食べます。従って人が牧草を収穫、貯蔵し給仕する必要がなく、作業中のエサのロスや作業労力が抑えられます。

###### (3) 排せつ物処理が不要

牛は放牧地でふんや尿を排せつするため、牛舎で飼う場合に必要なふん尿処理が要りません。

###### (4) 牛の健康増進

日の当たる草地は牛にとって衛生的で、充分な運動ができるため、健康増進になり受胎率の向上や供用年数の増加が見込まれます。

#### 概要

放牧で経営が成り立つかは核心的事項です。放牧を取り入れることにより作業労働時間や生産費が低く抑えられます。次頁の表に実際に営農されている例を示します。統計値平均と比較して子牛生産1頭当たり作業労働（時間）や子牛生産1頭当たり生産費が大幅に抑えられています。

表 各事例の経営成果

経営事例	頭数／労力(人)	放牧地(ha)	生産費(物貯費)(千円)※1	作業労働(時間)※1	分娩間隔(日)	放牧期間	飼養管理の特徴
A(繁殖)	30／2	4	507	121	376	4月～11月	転作田移動放牧
B(稲作+繁殖)	24／1	11	315	59	730	3月～12月	転作田移動放牧、飼料イネによる放牧延長
C(繁殖肥育一貫)	83／4	18	329	51	363	周年	再生イネ及び水田裏作の牧草放牧、移動放牧
D(繁殖)	27／1	8	374	59	383	周年	移動放牧
E(繁殖)	24／1	12	244	38	383	周年	大牧区・定置放牧、親子放牧
統計値平均※2			529	128			

※1:子牛生産1頭当たり

※2:統計値平均は農林水産省「平成24年度子牛生産費」

【出典:千田(2015)「土地利用型酪農、肉用牛繁殖、飼料作経営の展開方向と課題」、「中央農業総合研究センター研究資料」、11号】一部加工  
[https://www.naro.go.jp/PUBLICITY\\_REPORT/publication/files/narcshiryo-11-intro.pdf](https://www.naro.go.jp/PUBLICITY_REPORT/publication/files/narcshiryo-11-intro.pdf)

#### 放牧実践事例-1

##### 雪国でも年中放牧でストレス与えず丈夫な子牛の省力生産を実践（岩手県：柏木牧場）

#### 概要

##### 1. 放牧経営に取り組んだ経緯

50年前から現在の場所で黒毛和種の繁殖経営を継続されています。省力管理には周年親子放牧が最適と考え、低コスト・省力的で十分な収益を実現されています（繁殖牛18頭、育成牛・子牛14頭、放牧地3.6ha、採草地10.0ha、飼料畑：2.0ha、労働力2.2人、草種はオーチャードグラス、トールフェスクなど）

##### 2. 経営理念

ストレスを抑え丈夫な子牛の生産を目標に、この地域で続けられる省力的な繁殖経営を目指す

##### 3. 特徴

(1) 冬季でも自給の乾草ロールやコーンサイレージを給与しながら親子放牧を実施

(2) 人工乳や代用乳は使わず、子牛だけが通れる隙間を活用して親子分離柵を設置し、放牧草と母乳以外にも濃厚飼料とコーンサイレージを自由採食させ、子牛増体は良好

(3) スタンチョンは首を痛めストレスになるとして、鼻環はつけず除角もせず、丈夫な子牛の生産を目指



自給の乾草ロールやコーンサイレージを給与しながら冬季にも親子放牧を実施

分娩予定の10日前に牛舎へ入れて分娩、分娩後20日経つたら真冬でも屋外で親子放牧



子牛だけが通れる、親子分離柵を設置。子牛は母乳と放牧草以外に配合飼料とコーンサイレージを自由採食させる。

## 放牧実践事例-2

自宅牛舎から離れた複数の耕作放棄地を活用した肉用牛繁殖・肥育一貫経営を実践（栃木県：瀬尾ファーム）

### 概要

#### 1. 放牧経営に取り組んだ経緯

20年ほど前に自衛官を辞め、周りに耕作放棄地の多い実家に黒毛和牛繁殖経営を目指して就農し、原野、畑、山を草地にして頭数を増やして行きました。その後、2019年の台風では河川に隣接する放牧地で牛が流され、土砂で草地が全面埋まるなど大きな被害を受けましたが、地域の協力も得て放牧を再開しています（放牧地：8.1ha、繁殖牛40頭、子牛25頭、肥育牛22頭、労働力2人、草種はオーチャードグラス、トールフェスクなど）。

#### 2. 経営理念

放牧で問題に遭遇しても不屈かつ新しいことにチャレンジする精神で、耕作放棄地を活用した省力的な放牧畜産経営を示し、この地域の経済や福祉などに貢献する。

#### 3. 特徴

(1) 自宅から離れた放牧地で種付け、出産させ周年で親牛、子牛、育成牛を放牧

- (2) もてぎ放牧黒毛和牛としてブランド化し、地域の経済や福祉等にも貢献
- (3) 12ヶ月まで放牧し、13ヶ月から肥育で無駄なし  
美味しい牛肉作りができる（食肉格付けと肉の美味しさは違う）。



2006年から耕作放棄地活用し放牧地を徐々に拡大



放牧育ちは長期肥育に耐えられる。

### 放牧実践事例-3

#### 分散する複数の耕作放棄地を活用した繁殖経営の実践（岩手県：菊池牧場）

##### 概要

###### 1. 放牧経営に取り組んだ経緯

20年ほど前に繁殖牛は50頭を舎飼していましたが、地元普及所から放牧を勧められました。自宅周辺の自己有の水田跡地の放牧から徐々に放牧地（オーチャードグラス主体）を拡大し（多くが借地、総面積14ha）、増頭しています。今では「放牧なくして経営は成り立たない」とされています（繁殖牛100頭、牧草地14ha、労働力3.5人、草種はオーチャードグラス、トルフエスク、シロクローバ等）。

###### 2. 経営理念

耕作放棄地を活用した省力的な繁殖経営を目指す。

###### 3. 特徴

- (1) 自宅から半径3km範囲に分散する8か所の借地に放牧。
- (2) 借地は耕種農家の水田跡地で、1か所当たり30a以上のまとまった所を毎年相対契約で借り受け、トラックで2~9頭を運搬配置。
- (3) 1か所の放牧地にはシーズン中に出し入れしなくてよい妊娠ステージの牛を放牧。放牧中は、人に慣れさせておくため時々一握り程度の配合飼料を手で給与。これにより運搬時の捕獲や乗車時のハンドリングを平易化。



### 菊池農場の分散した耕作放棄水田を活用した放牧

★は分散する放牧地の位置と放牧頭数

[https://souchi.lin.gr.jp/houboku/grassfarming/farm\\_016.html](https://souchi.lin.gr.jp/houboku/grassfarming/farm_016.html)

### 放牧実践事例-4

裏山を切り開き牛に任せた放牧で「安く子牛生産する」をモットーにした繁殖経営の実践（宮崎県：岩田牧場）

#### 概要

##### 1. 放牧経営に取り組んだ経緯

20年ほど前に繁殖牛は50頭を舎飼していましたが、地元普及所から放牧を勧められました。自宅周辺の自己有の水田跡地の放牧から徐々に放牧地（オーチャードグラス主体）を拡大し（多くが借地、総面積14ha）、増頭しています。今では「放牧なくして経営は成り立たない」とされています（繁殖牛100頭、牧草地14ha、労働力3.5人、草種はオーチャードグラス、トールフェスク、シロクローバ等）。

##### 2. 経営理念

牛が出来る事は牛に任せ、牛が訴える事を理解する放牧による飼養管理を徹底する。高く売るより安く作る「山岳和牛」を提唱し、限界集落を放牧で蘇らせる。

##### 3. 特徴

- (1) 日之影町の標高約200m地点で自己有地及び借地のスギ林、竹林を自らユンボを操縦して切り開き、放牧地化。
- (2) 子牛は基本舎飼いであるが、繁殖牛は出産後5日で放牧に戻し、冬季でもイネWCS等補給しながら放牧。



## 放牧実践事例-5

お茶園を営みながら茶園跡地に周年親子放牧、楽して儲ける繁殖経営の実践（大分県：（有）富貴茶園）

### 概要

#### 1. 放牧経営に取り組んだ経緯

50代で県のレンタカウ制度により放棄茶園へ黒毛和種妊娠牛を放牧、その成功体験により畜産新規参入を志されました。茶園跡地等を放牧草地(バヒアグラス主体)に自力で造成し、周年親子放牧されています(放牧地 22ha (3 牧区)、繁殖牛 50 頭)。

#### 2. 経営理念

出生直後から子牛とスキンシップを図り牛のストレスを抑え、低コスト高収益経営を目指す。

#### 3. 特徴

- (1) 子牛の調教重視により、管理容易で自然離乳でも問題なし。放牧地分娩を実施。
- (2) 放牧で1年1産、事故率低く、子牛は市場出荷まで親牛と一緒にDGも良好、受胎率や生育に問題はなく、市場価格も平均並み。
- (3) 放牧畜産を志向する新規参入者も、研修生として積極的に受け入れし、多くの放牧畜産農家を育成。



## 放牧実践事例-6

富貴茶園で学び夫婦で新規就農、周年親子放牧による繁殖経営を実践（大分県：さとう牧場）

### 概要

#### 1. 放牧経営に取り組んだ経緯

畜産素人の夫婦が、テレビで見た前掲の(有)富貴茶園永松氏の姿勢に共感し、1年間当場で研修後、新規就農されています。樹園跡地を自力で草地に開拓、補助事業を上手に活用しながら5年で経営確立されています（繁殖牛35頭、放牧地8ha、労働力2人、草種はバヒアグラス等）。

#### 2. 経営理念

夫婦で無理なく、楽しい放牧畜産

#### 3. 特徴

- (1) 永松方式を忠実に踏襲し、周年親子放牧を取り入れ放牧地（バヒアグラス、イタリアンライグラス）で分娩。自然離乳で受胎率良好、低事故率。
- (2) 牛や草地の状況に合わせ、無理なく増頭しつつ放牧地を拡大。夫婦2人で牛に愛情を注ぎながら、放牧畜産を満喫。

### さとう牧場の放牧風景



## 放牧実践事例-7

寒冷地十勝において親子周年放牧による飼料自給率100%、配合飼料なしの繁殖経営を実践（北海道：春日牧場）

### 概要

#### 1. 放牧経営に取り組んだ経緯

繁殖牛50頭、育成牛30頭を全頭、親子周年放牧を行なっています。放牧地は総面積29ha、野草地は8ha、草種はオーチャードグラスやチモシー、クローバなどで飼料自給率100%となっています。第2牧場を設け研修農場にしたいという夢をお持ちです。

#### 2. 経営理念

自然の中で育て「人と牛の信頼関係が健康な牛を育てる」がモットー

#### 3. 特徴

- (1) 放牧で牛を育てるための1番のこだわりは牛との信頼関係を築くこと。
- (2) 牛の健康に配慮し牛の腹が冷えないように、発酵熱を持った堆肥の上に藁を置いて敷料にし、冬は微温湯（約40°C）を給与。
- (3) 放牧でストレスなく育てられているため、肥育農家に渡った後も食い負けせずにしっかり育つ、と購買者の高評価。



## 肉用牛経営

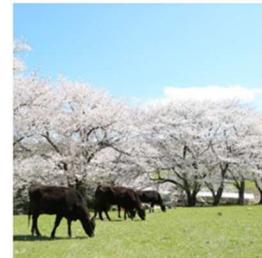
### I. 舎飼から放牧に転換を考えている方、関係者

#### 2. どうやれば放牧ができるの？

放牧に魅力を感じていただけたら、放牧飼養に転換してみてはいかがでしょうか。ただ舎飼飼養から放牧飼養にいきなり全面転換することは避けましょう。牛はもちろん、人も徐々に放牧飼養に慣れる必要があります。まずは放牧飼養へ転換するための要件について確認し、その後に転換手順についてみてみましょう。

#### 放牧転換の要件

- (1) 放牧地の確保
- (2) 放牧することへの周辺住民の理解
- (3) 転換する放牧飼養の体系（種類）



#### (1) 放牧地の確保

まずは放牧できる土地が必要です。牛舎に隣接した自前の採草地等を放牧地に転換できれば、最も望ましいです。自前でなくとも他者から購入あるいは借り入れることも考えましょう。放牧地は平坦である必要はありません。傾斜地でも耕作放棄地でも牛舎に近いことは放牧転換を容易にします。牛舎近くでなくても、牛舎から牛の誘導や運搬ができれば問題ありません。個人で放牧できる土地を捜すことが難しければ農地中間管理機構（農地バンク）などJA・市町村の窓口に相談してみましょう。

必要な放牧地の面積は、放牧する頭数、期間、草地の種類によって異なります。1年中屋外で飼養する周年放牧であれば、繁殖牛1頭あたり30aから1ha、夏季中心の季節放牧であれば1頭あたり10-40aあたりが目安となります。

#### ＜参照リンク＞

農地中間管理機構（農林水産省）

<https://www.maff.go.jp/j/keiei/koukai/kikou/nouchibank.html>



#### (2) 放牧することへの周辺住民の理解

牧草地で自由に草を喰む牛を見られることは、癒やしの風景にもなり得ます。一方で、牛が畜舎外にいることが、臭いや害虫の発生につながるとか、また牧柵の外に逃げ出し周辺の農作物等に危害を加える等の危惧もよく聞かれます。その可能性は皆無ではありませんが、極めて低いものです。周辺住民の方には、機会ある毎に丁寧な説明を心がけましょう。さらに牛を身近に感じてもらえるように放牧を少しずつ広げていくことで、周辺住民の方に、畜産業に対する理解を深めていただけます。



### （3）転換する放牧飼養の体系

以下に主な放牧体系（種類）を示します。自分に合った放牧飼養体系を目指しましょう。

#### 1) 季節放牧（移動放牧）

妊娠確認した繁殖牛を、夏季を中心に放牧し分婉前には畜舎へ戻す方法が一般的です。分婉前後や種付け、妊娠確定までは畜舎内で飼養します。子牛は畜舎内で飼養するので、放牧できる頭数は季節を考慮すると繁殖牛の半分以下で、一部放牧を取り入れた繁殖経営といえます。

#### 2) 周年放牧

繁殖牛を夏季だけでなく一年中放牧します。冬季は乾草やイネ WCS 等の補助粗飼料も給与します。分婉前後のみ畜舎で飼養し、子牛が離乳したら親牛だけ放牧地へ戻すパターンになります。

#### 3) 周年親子放牧

分婉前後も含め繁殖牛（親牛）を一年中放牧飼養し、放牧地で分婉させます。分婉後も子牛は出荷まで離乳せずに母牛とともに親子放牧します。分婉も含め子牛の管理は哺乳させる親牛にほとんど任せますので、極めて省力的といえます。

#### ＜参照リンク＞

周年放牧導入マニュアル（農研機構）

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/pamphlet/tech-pamph/140413.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/140413.html)

周年親子放牧導入標準作業手順書「山陰地方版」（農研機構）

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/90>

## 肉用牛経営

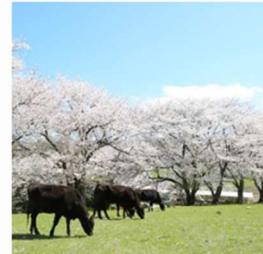
### I. 舎飼から放牧に転換を考えている方、関係者

#### 3. 放牧を始める手順

放牧地を確保し、放牧に必要な設備を整備し牛の放牧馴致などの準備ができたら放牧開始です。その転換手順についてみてみましょう。最初から全てうまく出来なくても心配いりません。実践しながら必要に応じて独自の改善を加え、やりやすい放牧飼養を目指しましょう。

#### 放牧を始める手順

- (1) 放牧地の整備と放牧施設の設置
- (2) 牛の放牧馴致
- (3) 放牧の開始



#### <参照リンク>

周年親子放牧基本技術導入編（農研機構）

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/files/2.YRGCC\\_manual\\_BasicTech.pdf](https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/2.YRGCC_manual_BasicTech.pdf)

#### （1）放牧地の整備と放牧施設の設置

耕作放棄地など平坦でない場所でも放牧は可能ですが、牛の移動をしやすくするように必要に応じて牧道（牛の行き来する通路）を整備しましょう。まずは放牧牛が逃げ出さないように周囲に牧柵を設置します。また放牧地内には飲水器や補助飼料給与のための飼槽、ひ陰施設、家畜管理を容易にするためのスタンチョン（飼槽に併設）を設置します。放牧地内に複数の牧区を設置する場合は内柵（電気牧柵）で区切れます。詳細は「4. 放牧に必要な整備」を参照ください。



#### <参照リンク>

農地中間管理機構（農林水産省）

<https://www.maff.go.jp/j/keiei/koukai/kikou/nouchibank.html>

よくわかる移動放牧 Q&A（農研機構）

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/pamphlet/tech-pamph/011196.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/011196.html)

## （2）牛の放牧馴致

これまで畜舎内で飼養されていた牛を、いきなり放牧すると環境の変化についていけず、また生草の採食に慣れないことから体調を崩し体重が減少したりします。こうしたことを避けるため放牧に慣らすこと（馴致）が不可欠です。まずは舎飼牛において、事前に生草を与える量を少しずつ増やしながら、また畜舎近くのパドックや周辺放牧地を活用して屋外環境や電気牧柵にも徐々に慣らし、あるいは公共牧場へ預託するなどにより、放牧にも順応できる牛を徐々に増やしていきましょう。



〈参照リンク〉

放牧馴致と呼吸器病などの疾病や日増体量との関係（2003年度成果情報）（農研機構）

<https://www.naro.go.jp/project/results/laboratory/nilgs/2003/nilgs03-21.html>

## （3）放牧の開始

ここまで準備ができたら、放牧開始することができます。恐れずに放牧された牛が落ち着くまで見守りましょう。心配であれば、夜は一時畜舎へ戻し翌朝に放牧再開する等、柔軟に対応することでも構いません。放牧開始当初は、牛は運動量が多くなり体重も減少しますが、数週間で回復していきます。放牧を実践しながら放牧地や放牧家畜の管理を行っていきます。詳細は「5. 放牧地や放牧家畜の管理」を参照ください。



## 肉用牛経営

### I. 舎飼から放牧に転換を考えている方、関係者

#### 4. 放牧に必要な設備

放牧地が確保できたら、放牧に必要な設備を整備していきます。以下に主に必要な設備を示します。

#### 放牧に必要な設備

- (1) 牧柵
- (2) 飲水設備
- (3) 給餌・捕獲施設
- (4) ひ陰設備

#### <参照リンク>

周年親子放牧基本技術導入編（農研機構）

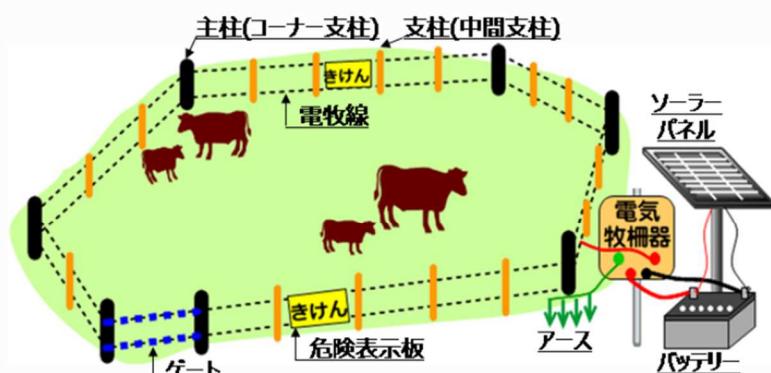
[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/files/2.YRGCC\\_manual\\_BasicTech.pdf](https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/2.YRGCC_manual_BasicTech.pdf)

#### (1) 牧柵

まずは放牧牛が逃げ出さないように周囲に牧柵（外柵）を設置します。放牧地の面積や形状により外柵の長さは異なります。牧柵の種類も含め、外柵の資材費を算出する牧柵整備計画支援ツールを活用してもよいでしょう。また、放牧地内を複数の牧区に分割活用する場合は、牧区を区切る牧柵（内柵）も必要となります。必要に応じて牛の移動を容易にする牧道も設置します。



有刺鉄線による牧柵の例



放牧地における電気牧柵の整備イメージ

#### <参照リンク>

牧柵整備計画支援ツール（農研機構）

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/files/3.YRGCC\\_manual\\_NewTech.03.pdf](https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/3.YRGCC_manual_NewTech.03.pdf)

## (2) 飲水設備

牛は毎日大量の水を飲みますので、必ず放牧地内に飲水器を設置します。各牧区からもアクセスできるように設置すると飲水器は少なくて済みますが、アクセスが遠いようであれば別途飲水器を設置しましょう。また、冬季も含め周年放牧する場合は、特に寒地では飲水が凍らないよう不凍水槽を設置します。



飲水容器例



不凍水槽例



+



自動飲水供給システムの概要

### <参考リンク>

家畜飲水システム（農研機構）

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/files/3.YRGCC\\_manual\\_NewTech.04.pdf](https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/3.YRGCC_manual_NewTech.04.pdf)

## (3) 納飼・捕獲施設

放牧地だけで牛が必要とする草の量や栄養を得ることが困難な場合、補助飼料（乾草、配合飼料など）の給与が必要になります。補助飼料を与える時に雨にさらされず泥濘化しないように屋根付きの給餌場が有効です。給餌場にスタンチョンを設置し牛の捕獲や種付け等の管理作業を容易にしている牧場もあります。またロールベールをそのまま給与する場合は、廃棄ロスを少なくする給餌法を心がけましょう。



放牧地での屋根付き給餌施設  
スタンチョンを併設(左)、鈴塩給与(右)



「らくらく給餌くん」によるロールベール給与

### <参考リンク>

ロールベール可搬給餌装置（農研機構）

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/carc/006600.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/carc/006600.html)

#### (4) ひ陰設備

牛は比較的寒さには強いのですが、暑さは苦手です。放牧地（牧区毎）内に林等があればひ陰林として活用しましょう。ひ陰林がない場合は、簡易な屋根付きのひ陰施設を準備します。



#### <参照リンク>

よくわかる移動放牧 Q&A（農研機構）

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/pamphlet/tech-pamph/011196.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/011196.html)

## 肉用牛経営

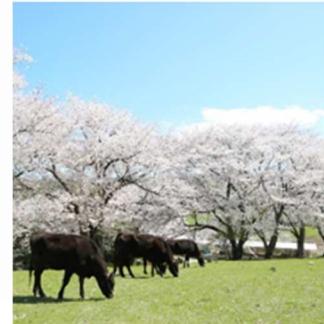
### I. 舎飼から放牧に転換を考えている方、関係者

#### 5. 放牧地や放牧家畜の管理

放牧を実践しながら、放牧草地や放牧家畜の管理を行っていきましょう。

##### <放牧地と放牧家畜の管理

- (1) 放牧地の草地化
- (2) 牧草の選定と播種
- (3) 雜草管理
- (4) 施肥管理
- (5) 人と放牧家畜との信頼関係
- (6) 衛生管理



##### (1) 放牧地の草地化

既に牧草がある採草地等では、そのまま放牧地になります。耕作放棄地では、牛が食べるススキやクズ等の野草や雑木が茂っていますので、そのまま1-3年ほど放牧します。その後、どうしても牛が食べない野草やノイバラなどの雑木が残った場合には人手で刈り払います。既存の野草などが食べつくされ裸地が増えてきた段階で、牧草を播種し草地化を図ります。なお、林等があれば、一部を残すことでひ蔭林として活用できます。



放牧開始直後

放牧後 12 日目

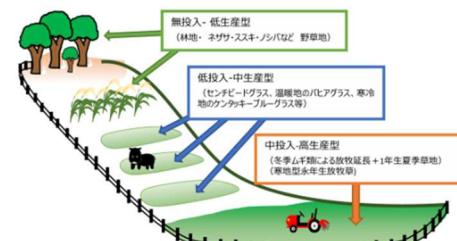
##### (2) 牧草の選定と播種

地域（気候帯）によって播種牧草は異なります。牧草作付け計画支援システムを活用してもよいでしょう。東北以北や高標高地帯の寒冷地では寒地型牧草のオーチャードグラス、トールフェスク、ケンタッキーブルーグラスを秋季に、関東以南や低標高地帯の温暖地では暖地型牧草のバヒアグラス、センチピードグラス、シバ等を春季に播種します（これら草種はケンタッキーブルーグラスも含めて土壤保全能力が高いほふく型草種）。放牧中に播種し、放牧牛に踏んでもらうことでも牧草は定着できます。農機が入れるようであれば軽くロータリー耕起し、播種後に鎮圧できれば牧草定着率は高まります。

##### <参照リンク>

牧草作付け計画支援システム（農研機構）

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/files/3.YRGCC\\_manual\\_NewTech.02.pdf](https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/3.YRGCC_manual_NewTech.02.pdf)



### (3) 雜草管理

放牧地全体が播種牧草で覆われて、放牧牛によって草高も短く採食利用されていれば、草地管理はほとんど必要ありません。重要なことは牛の食べない雑草の除去です。放牧を続いている内に、ノイバラやワルナスピ、チカラシバ、オオオナモミ、ギシギシ等の雑草が次第にはびこってきます。これらの雑草は初期の防除が最も重要で、見回り時に除去するようにします。牛が食べない見慣れない植物種があれば迷うことなく抜き取っておきます。

#### 放牧地の主要強害雑草



ヨウシュヤマゴボウ



チカラシバ



ワルナスピ



アザミ類



イバラ類

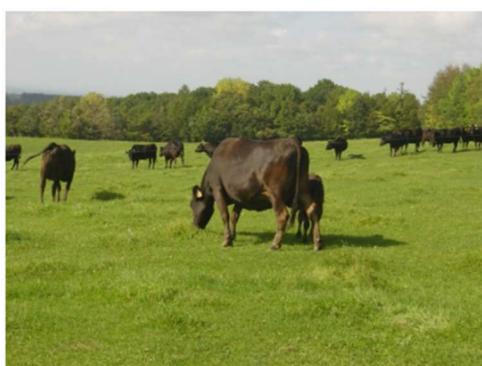


ギシギシ

### (4) 施肥管理

放牧地は採草地と違って、草や補助飼料を食べた牛のふん尿が還元されるため、土壤肥料養分はある程度循環しています。このため放牧頭数に見合ったエサとなる草が十分あり、牛の成育、繁殖成績が順調であれば、施肥は必要ありません。特に野草には施肥の効果が低いため与えません。

草不足に対する対策としては、補助飼料を与えるか、草の生産量を増やす必要があります。前述したように草地化した放牧地では、施肥は草の生産量を上げる効果が高く、一般的には施肥した方が補助飼料を与えるよりコストが抑えられます。従って、コスト、労力の面を考慮し、施肥するとなった場合には、堆肥、土壤改良資材、化成肥料を土壤・飼料分析に基づき施用します。



## (5) 人と放牧家畜との信頼関係

放牧は給餌や排せつ物処理作業が削減される反面、牛と飼い主との関係が希薄になりがちです。舎飼では、牛に必要なエサや水を飼い主が与えるため、必然的に牛と飼い主との関係は形成されます。放牧環境下では牛は自らエサや水を求める自由になるため、飼い主と放牧牛の距離が遠くなりやすく、人工授精など必要時に捕獲することが難しくなります。さらに現地分娩された子牛は、親牛以上に管理が困難になりやすいものです。そこで放牧牛管理のために、数日に1回配合飼料をほんの少し給与するだけで放牧牛を集めやすくなります。声かけやスキンシップを行いながら頭数や発情等の個体確認を行います。特に現地分娩された子牛は、生まれた直後からスキンシップを図ることでその後の管理が容易となります。この辺りの牛の扱いは実際に放牧を行いながら体得できるものです。



## (6) 衛生管理

放牧地では小型ピロプラズマ症や地方病性牛伝染性リンパ腫（旧：牛白血病）の疾病に注意します。これらはダニやアブ等の害虫が媒介することから、必要に応じて放牧牛体に薬剤を塗布し、アブトラップを設置します。他にも放牧で起きやすい病気があります。放牧地におけるぬかるみ対策や異物の除去、害虫対策に努めましょう。異常がみられればすぐに治療しましょう。



<参照リンク>

折りたたみ式アブ防除用トラップ（農研機構）

<https://www.naro.go.jp/laboratory/tarc/contents/horseflytrap/index.html>

放牧馴致とマダニ対策（農研機構）

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/pamphlet/tech-pamph/074180.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/074180.html)

放牧の部屋（農林水産省）

<https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/shiryo/houboku/houboku.html>

農水省 飼養衛生管理基準（農林水産省）

[https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku\\_yobo/k\\_shiyou](https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_shiyou)

## 肉用牛経営

### I. 舎飼から放牧に転換を考えている方、関係者

#### 6. 公共牧場の利用

##### (1) 公共牧場とは

公共牧場は、畜産農家の労働負担を軽くしたり不足する飼料基盤を補うため、地方公共団体や農協等が、畜産農家の飼養する乳用牛や肉用牛を一定期間預かり、放牧等を通じて農家に代わってそれらの飼養管理を行う牧場です。中には長期間受胎しない牛を放牧を活用して不妊改善を専門にする牧場（リハビリ牧場）もあります。全国で 682 か所あります（2022 年、総面積 80,709ha、全国牧草地面積の 13.6%）。

##### (2) サービス内容

夏季預託だけでなく、周年預託したり、また子牛を初生から育てたり人工授精や受精卵移植による繁殖管理なども請け負う多様なサービスを提供する牧場も存在します。

##### (3) その他の効果

公共牧場は広大な牧草地を有し国土の有効活用となっており、また国内の自給飼料基盤に立脚した足腰の強い畜産経営の実現につながります。

## ★畜産農家の主なメリット

①

労働負担の軽減  
(給餌・排せつ物  
処理作業等)

②

家畜の健全化  
育成、繁殖成績  
の向上

③

牛舎等の  
施設投資の軽減

④

牛舎の  
衛生環境の改善

#### <参照リンク>

公共牧場・放牧をめぐる情勢（農林水産省）

[https://www.maff.go.jp/chikusan/sinko/lin/l\\_siryo/attach/pdf/index-1277.pdf](https://www.maff.go.jp/chikusan/sinko/lin/l_siryo/attach/pdf/index-1277.pdf)

## 肉用牛経営

### I. 舎飼から放牧に転換を考えている方、関係者

#### 7. 放牧畜産に関する相談先

とりあえずの相談先(まずは)

(一社) 日本草地畜産種子協会 草地畜産部

(電話：03-3251-6501 FAX：03-3251-6507)

(メール：相談専用アドレス：info@souchi.lin.gr.jp)

へご相談ください。

#### 相談先

まずは (一社) 日本草地畜産種子協会 草地畜産部担当にご相談下さい。

#### <参照リンク>

(一社) 日本草地畜産種子協会

<http://souchi.lin.gr.jp/>

放牧に関する具体的な器具器材や、技術的な事に関しては資材等を取り扱う民間企業等でも相談は可能ですし、HP 等で関連情報は入手可能です。